

刊夕日八十月一十



定額一冊五錢... 廣告料五錢... 印刷所 常磐每日新聞社

石城郡下兒童 唱歌會を聴く

根 本 邦 雄

【三】

七、『鶯の歌』尋五女獨唱は随分努力した結果が明かに見受けました、然しこの生徒の聲の出し方に注意して御覽なさい、特に尋五女兒童として胸聲を擴く使用した事は根本からの指導に欠陥がある事に気が付きませんか？胸聲を使用する事は科學的に生理的に不合理なのです、一般學者は「兒童には胸聲を絶対使用させぬ事」と論じてゐます。子供の聲は非常に軟弱で女は僅かに四分一厘の聲帯を有する竹の中に入れてる白紙の様な非常な薄いものです、これが胸聲によつて大變痛められたかを喉頭鏡で見ると充血したり、厚く成りして振動に不自由を來し、結局良い唱歌には成らぬ事勿論なのです。

で大人に成つてからも聲の悪い人は右の様な事が子供時代にあつた人に多い様です、それで結局は上手に歌つた様に考へられますが、子供らしい聲の美がない爲童謡としての本歌曲及千代紙の歌曲

程つけて置くとき柔かになつて、美味しくなりすす然し、餘り永く入れて置くと柔かくなりすぎて却つて味が悪るくなります

を獨唱しても可愛さが失つてゐた事に誰人しも氣の付いた事を感じた事です、唯自分としては歌曲の云々でなしに兒童發聲に注意して頂き度く深く考へて來ました。

最後に願つても叶ふ事な

二明日の献立

【朝】わかめみそ汁

【晝】里芋 はす ごぼうの旨煮

【晚】肉 ねぎ じゃが芋 カレー粉 バタのライスカレー

らピアノの音を美しく聴きたく希みました。八、『赤とんぼ』(齊唱)尋三女は軽い歌曲であつさり

片付けた点は心をひいたが幾分發音に不明を來たした事は残念でしたのでせう。

九、『カウモリ』(唱遊)尋一男女遊戯です、一年生の生徒さんが舞臺で大手を振つて元氣よく演ずるは子供大人もよろこびはめ

た事は致方ないでせう。十、『秋の夕べ』(二部合唱)高一女この歌曲の演奏振りには誠に上出来だつたのでせう、特に歌詞を明瞭に音樂的に唱誦された事は他に負けぬ良点です、然しもつと上手に歌ふとすれば三拍子のアクセントに注意して御覽なさい、所々に於て三拍子のアクセントが取換へられて歌つた事にお氣付きになつたでせう、最後の小節の長三度の結びは人をして幾分物不足の感が起きますが本歌曲の特有です。

笑話

『デブ奴、また結婚したんだつてねしかも、こんどの妻君は、先の妻君の妹だつて云ふぢやないか』
『うん、デブは姑を二人も持つのがいやなんだつて』



常磐歌壇

村澤よしの

とりわけて吾を愛でせしとさく祖父の老いゆく姿うらさびしもよ

真心のあんまに祖父はいねるらしうすら寢息を漏らし初めけり

平和な祖父の寢息をきくあれば恵まれぬ吾に恵まるものか

たらちねのみ思のほどぞ日ひと日つもりゆく吾に老へゆく祖父

土砂降りの雨後さわしもよ赤とんぼへちまの花にたわむるははも

朝に夕に手しほにかけしをそへちま無駄花多きを歎かるゝなれ

イヤ！ 君！

いゝ冬服を求めたね

断然三二年型だよ

いやコレカネ！

例の……「ソレ」

正札堂



六三四電通車場停目丁四町平

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八八番

美味！ 芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

科人婦。科外
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

高級貸切……

不一一夕クシ

電・3・2

科外

X 光線科
性病科
外科

平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

入月随意

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

●新刊書大特賣●

- ▼ 神秘と迷信の研究 四六版二百八頁かな附 特價金五十錢
- ▼ 呵々 大乘酒落禪 四六版百四十頁かな附 特價金三十錢
- ▼ 一休禪師奇行笑談 四六版二百卅頁かな附 特價金五十錢
- ▼ 大悟 禪學繪入笑談 四六版百六十頁かな附 特價金三十錢
- ▼ 徹底 禪學繪入笑談 一冊十五錢
- ▼ 守り本尊開運法
- ▼ 神秘流催眠術極意
- ▼ 男女 神佛開運秘傳
- ▼ 相性 神佛開運秘傳
- ▼ 幻術妙法秘密傳
- ▼ 陶宮術開運法
- ▼ 便利不可思議法皆傳
- ▼ 重寶 不可思議法皆傳
- ▼ 掘出し 切手古錢銘鑑

●佛敎書籍目錄進呈

日本佛敎新聞社

振替東京一五八六〇番

郡下農家の大時化

被害十一萬圓

平窪一村のみでも六七萬圓

各町村被害反別

石城郡駐在農業技術員米山技手は郡下の時化騒ぎが一段落を告げたので目下農村の正確な被害調査を極力進めて居るが郡内の稲流失は三百町歩(金額十萬圓)外に野菜類を合すると十二萬圓に達し殊に平窪村の如きは稲の流失六十町歩に及び此外麥と紫雲英等の被害四十七町歩を加ふる時は六七萬に近いといはれて居る尙各町村の浸水並に稲の流失反別は左の如くである(單位町)

町村名	浸水	稲流失
平窪	九	一
赤井	二二六	六〇
好間	七〇	二五
錦	六五	一〇
植田	三〇八	二五
泉	二九五	一五
大野	二五	三
大浦	二五〇	二〇
草野	四〇	一〇
玉川	三〇〇	九

建ててる倉庫が倒れて大損害

草野の農業倉庫

既報石城郡草野村信用組合で工費五千圓を以つて新築中の農業倉庫は九分通りの竣功を見た處去る十四日夜の暴風雨の爲め倒壊し三千圓の損害を見た

山林關係 約一萬圓

暴風雨被害

平窪林署では管内各方面の

暴風雨被害調査を進めてゐたが今十八日まで判明した被害は
△上小川村山林の軌道十
五ヶ所損害約七千五百圓
△永戸村、上小川村地内
車道八ヶ所損害五百圓△
大浦村外三ヶ所の官林、
松林、保安林十町歩損害
二千圓△大浦村の護岸工
事七百圓△其の他約三百
圓
合計二萬圓に達してゐるが

年の功で 勝つた野球

警中職員の試合

警城中學校職員野球クラブでは昨日午後一時からヤングとオールドの二つに分れ盛んに鏖をけつたがメンパーは左の如く九対八のスコアにてオールド組が年の功だけに幸勝した

学生卓球

青年學校で

既報二十日午前九時より警城青年學校に於て開催される第一回石城郡下學生卓球大會優勝カップ争奪戦に警中及び平窪の出場選手は左の如くである

△警中 (三年)川島次郎
三浦正松(四年)中村正男

教員籠球

本年中止

申込チーム

既報濱三郡小學校教員籠球大會は来る二十三日平第一小學校グラウンドに於て開催する筈の處締切日である本日迄の申込みチームは小名

債務調停の爲めに 會見室を新築する

會見室を新築する

平區裁判所にては今般債務調停に關する會見室を建築すべく本日より工事に着手したが坪数は十坪にて約千圓を要する見込みであると

川前信用協議

石城郡川前村信用購買組合では明十九日午後一時より同村小學校に協議會を開き左の件に就いて協議を行ふと

△有限責任を保證責任に變更の件△設立當時の理事並に監事の選定の件

阿部訓導出福

平第二小學校阿部訓導は明日より二日間本縣主催の下に女子師範學校に於て開れる兒

聲明書

拜啓時下初冬の之候貴下益々御健勝之段奉賀候陳者今回老生警城共濟會長辭任に付き會員各位及地方辱知諸君より御下問に接し實に感謝に不堪候ゆゑ甚だ延引ながら辭表の内容に付き御報告申上度候御も警城共濟會は會員相互の救済並に窮民の施療を本願とする共存共榮の社會的精神に立脚し去る大正十二年の創立に係り會員各位の零碎なる據金によつて當附屬病院を建設し爾來専ら本會創立の趣旨に則り鋭意苦心經營の結果近年漸く本病院の内容充實し其存在を一般社會に認めらるゝに至りたることは寔に各位と共に欣幸とする所に御座候願れば老生警城共濟會の創立を企圖し部下各地に行脚し會員各位に懇へて基金を仰ぎ當附屬病院の建設を見たるも當時會員の據金は該事業計畫の半ばにも達せず故に工事費の支拂醫療器具の設備其他業務の遂行上に就ては並々ならぬ苦心を要し候折柄恩賜團濟生會理事長故二條公爵閣下(御在世中)内務省衛生局高野六郎博士前院長助川喜四郎博士及時事新報社北澤樂天壽伯等と共に本會病院發達の爲めに再三熱烈なる御講演被下殊に二條公爵閣下には本會病院の趣旨及情狀を酌量御同情賜はり恩賜團濟生會救療部より醫療器具器具其他特別に交與せられ將又本會病院創立當時より各大學醫學部各教授其他知名の博士等より特に御配慮に與りたることは本會病院の最も僥倖とする次第にして且つ光榮として終始忘るべからざる儀に有之候而して會員各位の信任を得て本會病院主管の要職を汚し來りたる淺學非才の老生は兎も角今日まで大過なきことを得たるは之れ偏に會員各位の御同情ある御指導と御鞭撻の賜にして老生の唯々感謝措く能はざる次第に御座候然るに晩近老生の健康は此の繁務に堪へ難きを以て暫く休養の暇を乞ふべく這般の役員會に諮りたるに幸ひにも承認を得るに至り後任會長井上茂作君に事務一切を引續ぎ將來新會長に俟つて彌々本會病院の完成を貫徹することに致候御承知の如く井上新會長は人物手腕共に練達の士にして其主宰に係る本會病院の將來は寔に期待するに餘りあり老生が畢生の事業として渾身を捧げ來りたる本會の後事を托すに復と得難き適材と信じ各位は井上新會長を推戴し協力以て本會病院の達成に御盡瘁あらんとを切に切に念願する次第に御座候承らるゝの間御懇切なる御指導と御同情に對し酬ゆべき何事をも成し遂げず茲に本會々々長を退くに際し敢て各位の御賢察を仰ぎ度乍失禮書中を以て御挨拶申上度如斯に御座候
昭和七年十一月
警城共濟會 附屬 共濟病院
創立者 賀澤忠治

乗組員のない 難破漁船漂ふ

江名町の喜榮丸と判明

明したとて

昨報石城郡内の發動機漁船は未だに消息不明である爲め昨十七日より小名濱水産試験場の警城丸が出動して金華山より小名濱迄の海上捜査を行つたが判明しないので本日は更らに千葉縣沖合に向つて出動せんとした處本日

平署に急報し來つたので茲に始めて喜榮丸の中田船長外左記全員十五名は海底の藻屑と消えた事が明らかとなつた

(船長)中田喜三郎(機關手)内山勝(漁夫)坂本金治 同松吉 中田熊吉 佐藤萬吉 坂本萬治 田澤圓之丞 沼田辰治 石見良吉 坂本西吉 氏家豊治 山本二瓶治 黒川宣吉

正午頃 銚子署より

奈川縣三崎町の某漁船が今朝銚子沖合で乗組員のない難破漁船を發見調査すると江名町黒川喜一郎所有の喜榮丸十九噸六十五馬力と判

被害者の 滞納整理には

幾分手心を加ふ

縣稅務平出張所では目下郡下に於ける本年度前期分未納額約四萬圓の整理中で近く平町の未納者千名金額二千六百餘圓も整理する事に

暴風雨被害を 内務部長調査

赤土本縣内務部長は本日零時五十分分平驛着列車にて郡下の暴風被害地視察の爲め來平小林平土木監督所長の案内で直に植田町に出發附近町村を視察の上小名濱、江名等を経て本日は湯本町に一泊明日十九日は豊間漁港を視察し石川郡方面に向つて出發する豫定である

矢田川災害 復舊の村會

石城郡玉川村では今回の暴風雨に依り損害を蒙つた同村矢田川の災害復舊工事を起工する爲め本日後二時

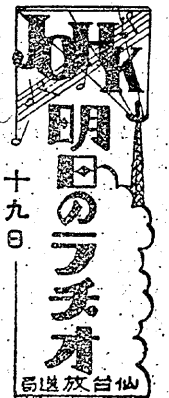
珍訴訟

松ノ枝事件は 五十錢で和解

既報石城郡高久村大字神谷作字福谷六十番地鈴木甚四郎(口)が去る九日同村七番地大谷辰五郎を相手取り畑の松の一枝を勝手に

萬引老爺 舉動不審で 平驛に捕る

十七日夜平署の刑事が密行中平驛待合室附近を徘徊する舉動不審の老人があるのを本署に連行取調べた處同人は當時住所不定無職茨城縣多賀郡榎形村生れ松本重雄(口)で同日午後一時頃三丁目三井呉服店々頭から補助たび二足と平驛待合室の賣店柴田テイから貰其他二



今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
幼年童話「元ちやんの夢」
安島八郎
後七、三〇 講演「滿洲の金融と經濟事情」
滿洲中央銀行副總裁
山成喬六
後八、〇〇 地唄「狹庭」
絃島原松園 尺八細田場

今晚の部
後八、三〇 ラヂオ風景
後九、三〇 日本棋院秋季東西大手合戦續
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫告
明日の部
前九、一〇 料理献立「烏賊團子の盛物」宮城縣社會課

山
後八、三〇 ラヂオ風景
後九、三〇 日本棋院秋季東西大手合戦續
後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫告
明日の部
前九、一〇 料理献立「烏賊團子の盛物」宮城縣社會課

前二、〇〇 婦人講座「巴里の女性を語る」深尾須摩子
後七、三〇 連續講談「梅ヶ枝仙之助」終席 太田貞水
後八、二〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」早稻田對慶應第一回戦
後二、〇〇 婦人講座「日本婦人とその社會的活動」佛敎信仰と婦人の社會事業」文學博士中村孝也
後二、三〇 運動競技「早帝蹴球試合状況」
後五、〇〇 受驗講座「英文和譯」日進英語學校長

佐川春木
後六、〇〇 子供の時間
童話劇「門人と語る一茶」
名古屋おもちゃのお家
後七、三〇 講演「我國馬車の大勢」帝國馬匹協會々頭伯爵松平頼壽
後八、〇〇 獨唱とチェロ獨奏「ヘレンモリスリー」
ピアノ伴奏フレットグレイ
後八、四〇 放送舞臺劇
片岡我童中村時藏一座
後九、三〇 滿洲より講演「東邊匪賊討伐と自動車車の活動」關東軍自動車隊長陸軍輜重兵中佐落合忠吉

夫を惡罵されて 女房恨みの放火

來る二十六日に公判開廷

石城郡内郷村大字綴字堀坂二十五番地居住田村郡移村生れ日備坂内(口)に對する放火事件の公判は來る二十六日午前九時より平支部に於て中島裁判長係り、關口、竹内兩判事陪席、小林檢察立會、新田目官選辯護士列席の下に開廷される事になつたが被告(口)は數年前より肩書地に居住し其の隣の同所十五番地筋内晋治方とは親密な関係であつたが本年七月上旬頃晋治は醉餘クラ方に來り内縁の夫菅野廣治を散々惡罵した

機關銃が 三臺參加 青年聯合演習

既報來る十九二十日の兩日湯本渡邊兩方面に於て行れる石城郡青年訓練所聯合大演習に仙臺市歩兵第四聯隊第二師團より機關銃三臺參

難波醫院

平町新川町
電話五〇二番

平職業紹介所報告

回人を求める方
△出前持 二十才 尋卒
月五圓(平町某カフネー)
△農夫 二十六才 委細面談(高久村某)
△外交員 五十才迄 高卒
給料歩合(平町某)
△兒守 十六才 尋卒 給料面談(平町某)
△回職を求める方
△パン工見習 十八才 高半退 給料面談(平町某)
△活版工 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
△出前持 二十才 高卒 給料面談(平町某)
△雜婦 四十一才 尋卒 給料面談(平町某)
△女事務員 十七才 高女 卒給料面談(平町某)

慕末御留

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百四席 平手造酒

道樂の修業を勧める

新生町の質屋留吉は伴留

次郎に向ひ初春の參會に行

くについての注意を與へ

父「お前は酒も飲まずそれ

に餘り世間の事も知らぬか

らなるべく酒を飲まぬ人の

隣へ坐れ席に就ければお膳

が来る、その時に帳場で貰

つた膳札を渡すそれからも

う一ツ云つて置くが、若い

者も来るだらう、何も實際

だ、留さん潮來へでも行き

ませうかと云ふ者があつた

ならば、斷らねえで一緒に

行くがよい偶には若い者が

遊びもするがよい」

留「へエ潮來へ参りますか

何んで潮來などへ行きます

ね、お寺詣りでもいたしま

すか」

父「冗談云ひなさんな、宴

會の崩れにお寺詣りをする

者はなからう、潮來には遊

女屋がある、そこへ遊びに

行くんだ」

留「それは怪しからん事で

そんな汚れた所へ足を入れ

てモシ悪い病にでも罹りま

すと一生それが爲に苦し

ます、従つて御兩親に御苦

勢をかけます、既に論語に

も父母はその疾を憂ふとご

ざいます又危邦に入らず亂

邦に依らずと申す事もござ

います」

父「是は驚いた、こんな所

で論語の講釋をしてはいけ

ない、まア、實際に行く

がよい」

留「左様ならば行つて参り

ます」

ばかり小粒で入れてやんな
さいアこれを持つて行き
な、今夜は泊つて來てもよ
い」

留「左様でございますか、

では行つて参ります」

留「何處へ行きます」

新「潮來へ行きますよ」

留「心得ました、親父から

其事は聞いて居ります、潮

來へ誘はれたら一緒に行き

又一晩位空けてもよいと申

して居りました」

新「えらい阿父さんだ、流

石は道樂をしただけあつて

こんなことは行届いて居り

ますね、お前さんの阿父さ

んに引替へ、私の親父は判

りません、勝手な事ばかり

云つてゐますもつとも私も

少し遣ひ過ぎるがそれにし

てもお前さんの阿父さんは

粹だ、出來る事ならば私の

親父と取替たいものだ」

留「これは恐れ入りました

イヤもう兩親に苦勞をさせ

てはなりません、親を喜ば

せるは子の勤めでございま

す」

新「イヤ感心いたしました

あなたに親孝行だ、氷を割

つて鯉を捕る方の性だ、何

しろ潮來へ出かけませう」

留「左様なれば御同道いた

します、そこで一寸お断り

申して置きますが私はまだ

遊女場所へ参つた事がござ

いません、従つて勝手が存

じませんが宜しくお引廻し

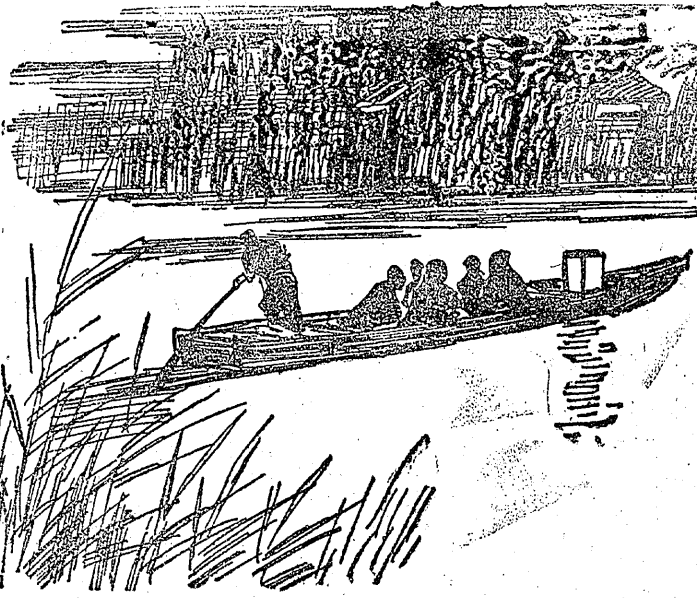
下さいませ」

新「承知いたしました、萬

事私にお任せ下さい決して

お心配には及びませぬ」

と兩人同道で潮來へやつ



父「オイ、その儘では

いけない着物を着替へ行き

な」

是から留次郎は唐絲織の

小袖に上田納の羽織紺獻上

の博多の帯を締て服装が出

來上つた

父「婆アさん紙入れに十兩

では行つてお出で……」

これから留次郎は三河屋

に出て來たが、仲間の者が

約五十人ばかり集まつてゐ

る留次郎は同業の伊勢屋の

金銀

高價買入致します！

◎御修繕は
技術に絶対自信
を持つ弊店へ
ダイヤ堂

鈴木時計店
平驛前通り

斯界の權威!!!
大塚の靴
自製編上靴 六圓
學生靴 女學生半靴 五圓
紳士靴 弊店自慢の
流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七番

難波醫院
平町新川町
電話五〇二番

旅行カバンと毛布

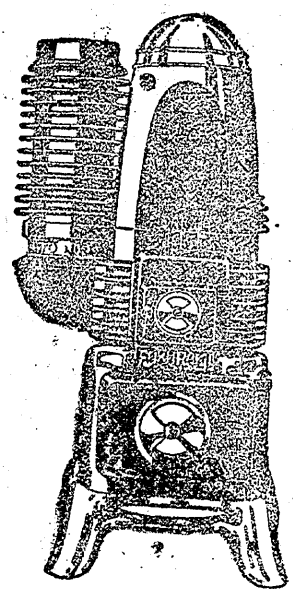
御旅行と散策の秋が参りました。
馬鹿／＼しい最近の値上りを外に
格安品を豊富に取揃へました。
毛布と一枚物二枚續き等今が絶好の
お買時です……

平
ヤルツ
〇四一電

胃腸病妙藥

昔ハ料理ニ必ズ「シ、茸」ラ
用タリ今ハアマリ使ハズ甚
不都合ノ次第ナリ「シ、茸」
ヲ煎ジ臥寝前ニ服用スレバ
胃腸ヲ整ヘ便通正シク氣分
爽ナリ諸病ヲ未然ニ防グ効
能アリ人助ノ爲メ廣告ス此
ノ秋は茸類ノ出ル時節ナレ
バ新茸程効能著シ各家庭ニ
テ百匁位ツ、常備シ置ク事
肝要ナリ

阿部石炭商店
平停車場前



嚴冬の征服者
福祿ストーブ
戸毎に福祿！四海は常春!!!

電話三七番へ

カタログ御申越下さい早速持参致します
福祿ストーブ福島縣一手販賣